

米国穀物生産者からの作物最新情報

「Grain News」の2月号では、3名の生産者、すなわちアイオワ州のトウモロコシ生産者であるグレッグ・アルバー氏、カンザス州のソルガム生産者であるアダム・ボールドウィン氏、ノースダコタ州の大麦生産者であるマーク・シーstrand氏を取り上げ、今年の米国穀物の作付期、生育期および収穫期の見通しについての最新情報をお届けしました。この号ではこうした生産者に取材して、それぞれが栽培している作物の進捗状況をお知らせしたいと思います。

有望視される今年の米国トウモロコシ生産

今春のトウモロコシの作付時期は、いずれも適正な発芽に欠かすことのできない土壌水分と温度によってばらつきがありました。アイオワ州立大学の公開講座やアウトリーチ・オフィスの情報によれば、標準的な年ではアイオワ州のトウモロコシの作付は場所により異なるものの、4月上旬から5月中旬に始めることができます。

アイオワ州の生産者グレッグ・アルバー氏は、4月の作付条件が整っていたため丁度よい時期に作付することができました。彼の圃場では、6月中旬までにトウモロコシは6枚の葉を完全に伸ばしきった状態、つまりよくV6段階と呼ばれる栄養成長期に到達しました。

「トウモロコシは本当に素晴らしい状態にあることが見て取れます」とアルバー氏は話します。「いい時期に圃場での作業を開始することができましたし、生育期の初期段階にとって望ましい天候状態でした」

実際、米国コーンベルトの多くの地域で、トウモロコシの豊作の可能性が予見されます。米国農務省 (USDA) の6月中旬の、トウモロコシ生産トップ18州を含む全国作物生育進捗状況報告書によれば、トウモロコシの59パーセントが「良い」、14パーセントが「とても良い」となっています。こうした数字は昨年同時期の予想と一致しています。




アイオワ州にあるグレッグ・アルバー氏の農場で栽培されているV6栄養成長期にあるトウモロコシ


トウモロコシ生産地域の多くで、6月初旬に平均的な降雨量を上回る雨が降ったものの、その後乾燥した暖かい日が続いたため、米国トウモロコシ生産者の

U.S. Grains Council

Email: grains@grains.org
www.grains.org

 @usgc

 /usgrainscouncil

 /usgrainscouncil

U.S. Headquarters

20 F Street NW
Suite 600
Washington, D.C. 20001
207.789.0789 TEL
202.898.0522 FAX

アメリカ穀物協会

日本事務所

〒105-0001
東京都港区虎ノ門1-2-20
第3虎の門電気ビル11階
TEL: 03-6206-1041
FAX: 03-6205-4960

Developing
Markets.

Enabling
Trade.

Improving
Lives.

次ページに続く

ほとんどがそうした雨の多い天候状況をしのぐことができました。自然の排水や圃場の傾斜も降雨に対応する上で役立ちました。

「雨が多かったために過度な湿潤状態となり、特に堤防の河側等では場所によっては水が溜まってしまったところもありました」と全米トウモロコシ生産者協会で生産と持続可能性を担当する副会長であるポール・バーテルズ氏は話します。

「中西部のトウモロコシの大半が地中深くまで根を張っているので、十分な窒素を取り込むことができ、6月中旬に米国コーンベルト一帯を通過した熱帯低気圧による悪影響を回避することができました」とバーテルズ氏は話します。「ところが、それ以降にも更に大量の降雨があったため、被害を受けたトウモロコシもありました。それが USDA の予測値に反映されています」

6月末の報告の予測では、作付面積は8,889.7万エーカー（3,590万ヘクタール）で、3月に予測した8,919.9万エーカー（3,600万ヘクタール）を約300,000エーカー（121,000ヘクタール）下回っており、昨年の合計面積9,059.7万エーカー（3,700万ヘクタール）から2パーセント減少しています。

生育期の残りの期間中、アルバー氏はドローンを用いて圃場を綿密に監視する予定です。ドローンを使用することで、得られた圃場の画像を分析し、注意が必要な個所を見極めることができます。スマートフォンのアプリケーションをはじめとするその他のテクノロジーも活用して土壌の水分や温度、窒素レベル、そして圃場全体の健康状態を監視します。収集した情報をテキストメッセージで送信して、ドローンのデータを補完します。

アルバー氏は今年のトウモロコシが幸先のよいスタートを切ったと考えていて、天候状態が生育期を通じてずっと良好であるよう望んでいます。「今年の作物は2014年より良くなると思いますよ」と彼は言います。

カンザス州のソルガム生産者は良好な生育期に期待を寄せる

カンザス州中部に農場を持つ生産者アダム・ボールドウィン氏はまだソルガムを作付していませんが、必要な雨が晩春に多く降ったため、上々の生育期を迎えられと期待しています。

「今年は間違いなくいいソルガムになるはずですよ」と彼は言います。

「圃場に入ったのは予定よりも遅くなりましたが、通常作付は遅いほうが作物に良い結果をもたらします」



カンザス州中部にあるアダム・ボールドウィン氏の農場でのソルガムの作付

写真提供：カンザス州 Alive & Well

粗粒穀物の生育進捗状況

米国農務省 (USDA) の全国作物生育進捗状況報告書によれば、5月末までにトウモロコシの92パーセントが作付されており、これは5年平均を僅かながら上回っています。6月末の報告では、トウモロコシはちょうど絹糸抽出期に入ったところで、68パーセントが「とても良い」または「良い」の状態となっています。

トウモロコシ作付面積は8,889.7万エーカー（3,590万ヘクタール）で、これに相当する総供給量は148億ブッシェル（3億7,600万トン）が予測されます。この数字は前年よりも約2パーセント減少しています。

6月末までに作付されたソルガムは92パーセントで、「とても良い」または「良い」は68パーセントです。USDAの推計によれば、ソルガム総作付面積は前年の11パーセント増です。

大麦は73パーセントが「とても良い」または「良い」と報告されており、前年を5パーセント上回っています。これには生産地域において好天に恵まれたことが大きく寄与しています。

加えて、報告されている全米の表土含水率は61パーセントで、これは作物の成長が普通または阻害されないと考えられるレベルです。

USDA作物生育進捗状況報告書は以下をご覧ください。

www.nass.usda.gov/Publications/National_Crop_Progress

次ページに続く

カンザス州の中でもボールドウィン氏の農場がある地域では、低温多雨のため、予定していたように早く圃場に入ることはできなかったものの、彼曰く、まだ作付には十分な時間が残されています。カンザス州立大学によれば、州内の地域により、またそれぞれの条件にもよりますが、5月上旬から6月下旬までは作柄に影響を及ぼすことなく作付することができます。

「7月4日までに作付すれば、十分な生育期があることになります」とボールドウィン氏は言います。

米国農務省（USDA）の6月下旬の報告書では、カンザス州のソルガムの90パーセントが作付されています。これを2010年から2014年の平均と比較するとわずかですが4パーセント下回っています。その理由のひとつとして、州内の一部地域が非常に多雨であったことがあげられます。米国ソルガムベルトの大半の地域で晩春に多雨となり、多くの農場で作付が遅れることになりました。

天候状態に加え、雑草も生育期の作物の健康にとって脅威となります。ボールドウィン氏は毎年同じ場所に同じ作物を植えることを避けて圃場を清浄に保つことで、こうした問題を最小限に抑える措置としています。発芽後は作物コンサルタントがボールドウィン氏の圃場を見て回ります。コンサルタントは葉緑素計を用いて光合成のための葉緑素が植物にどの程度含まれているかを計測し、一定の区画に窒素を多く散布する方法を用いてどの圃場にどれくらいの窒素が必要かを見極めます。

ボールドウィン氏は今秋の収穫時期に市場が強気になることを期待しています。世界市場でソルガム需要が増大していることから、米国のソルガム生産量は大幅に増加しています。USDAの予測によると、今年の作付面積は790万エーカー（320万ヘクタール）に達し、昨シーズンから11パーセント増加します。

2015年の米国大麦生産の明るい見通し

ノースダコタ州の大麦生産者マーク・シーストランド氏は、大麦が非常に良好なスタートを切ったと言います。「5月中旬の作付期の状況は理想的でしたし、丁度良いときに雨が降り、生育期も上々のスタートとなりました」と彼は話します。「今年の作物については保守的に見ても樂觀できます」

シーストランド氏は今年新たな品種を追加しました。ノースダコタ州立大学が開発した大麦新品種のジェネシスです。この品種は採種用として収穫されます。彼が栽培している他の品種と同じ世話をしますが、作付期や生育期を通じて異なる面もあります。

「種子生産を目的としているため、ジェネシスは浅目に植えます」とシーストランド氏は言います。「生育期、この大麦は他の種類の大麦と同じですが、収穫期になると穀粒が他の品種よりも大きくなるため、穂の部分が違ってきます」

研究者は出穂期以降に水分ストレスに見舞われるような環境下でモルト大麦を栽培する場合に、ジェネシスの子実タンパク質含有量の低さが役立つのではないかと期待を寄せています。

シーストランド氏は彼の農場のあるノースダコタ州、特に大麦が第4葉期および第5葉期に到達しようとしている西部および中部地域の大麦生産は良好と見ています。しかしながら、同州の東部および北部地域では天候が生育期に悪影響を及ぼしており、圃場によっては遅霜や過剰な降雨で収量が減少する可能性があります。



ノースダコタ州にあるマーク・シーストランド氏の農場で、6月時点で約14インチ（35.5センチ）まで伸びた大麦

[次ページに続く](#)

「全体として、今年の大麦の成長は予定より早くなっています」とノースダコタ州大麦委員会の執行役員であるスティーブ・エドワードソン氏は話します。「6月末時点で節ができた大麦は95パーセントで、これはこの時期の平均である67パーセントを上回っています。この成長段階では、大麦の主茎の節が初めて観察されるようになり、この節のすぐ上に穂がでてくるのです。これが生殖成長期の早い時期の指標となります」

米国の農務省（USDA）の農業統計局（NASS）は6月末の作物生育進捗状況報告書で、ノースダコタ州の大麦の状態は73パーセントが「良い」、13パーセントが「とても良い」と発表しています。

大麦生産上位州であるアイダホ州、ミネソタ州、モンタナ州、ノースダコタ州およびサウスダコタ州の結果をまとめたこの全国規模の報告書からも、今年の大麦生産が良好なスタートを切ったことが示唆されます。この地域の大半の大麦が「良い」または「とても良い」で、前年同時期にUSDAの報告書に記載されている予測を上回っています。

生育期のこうした初期段階では、生産者は必要に応じて除草剤や殺菌剤を散布します。散布によって作物の病気や雑草の広がりを抑えることができ、収穫期の品質や収量に良い影響を与えます。

精密農業機器を使用するのも生育期のこの段階です。シーストランド氏は殺菌剤や除草剤が適切に散布できるよう、トラクターに自動操縦機を搭載し、散布装置には流量制御装置を取り付け、強風時にドリフト制御装置も採用しています。こうした機器に人間が行う検査を加えることで、シーストランド氏は圃場の作物の状態を監視し、必要な処置を施すことができます。

今年の豊作の鍵となるのは適切な時期の降雨です。大麦生産最上位のこの州では作物は順調に生育しているようです。

「何事も瞬時に変わってしまうことがあります。現時点では作物の出来は非常に良好と思われます。今後もっと雨が降ることが予測されています」とシーストランド氏は話します。


USDAの作物生育進捗状況報告書は以下をご覧ください。

<http://usda.mannlib.cornell.edu/MannUsda/viewDocumentInfo.do?documentID=1048>.

州別の作物生育進捗状況報告書は以下をご覧ください。

www.nass.usda.gov/Publications/State_Crop_Progress_and_Condition/.

チャート図と地図は以下をご覧ください。

www.nass.usda.gov/Charts_and_Maps/Crop_Progress_&_Condition/2015/ 

気象配置が 2015 年の平均を上回る結果を示唆

全体として、米国の生産者はトウモロコシ、ソルガム、大麦に関して生育シーズンの良好なスタートを切りました。天候パターンを見ると、米国内のほとんどの地域は夏から収穫時までずっと天候に恵まれそうです。

エルニーニョも影響を及ぼす要因のひとつです。エルニーニョは大規模な海洋大気気候の相互作用です。米国海洋大気庁によれば、この現象は赤道太平洋の中部・中東部地域全体の海面温度が周期的に上昇することで始まり、その後全米の気象に影響を及ぼすようになります。

典型的なエルニーニョの夏は、米国の西部地域で高温乾燥状態となりますが、グレートプレーンズ地帯と中西部のほとんどの地域では低温多雨となります。エルニーニョは現時点の天候パターンに影響を及している唯一の要因ではありませんが、主要な要因です。

「マーケットトレーダーは作物にとって最も有害な気候、特に高温と干ばつの可能性をエルニーニョが低減するという見方をしています。我々としては良好な穀物年度となることが期待できると考えており、2013 年後半以降の市場動向に見られるような価格を押し下げようとする力を予測しています」とパデュー大学のクリストファー・ハート博士は言います。

西海岸地域を除き、中西部コーンベルトの多くの地域では米国の他の地域と同様にすでに平均降雨量を超える雨が降っています。

6月23までのデータを反映させた USDA の干ばつ監視報告書によれば、干ばつに見舞われている生産地域のトウモロコシはわずか 2 パーセントに過ぎません。

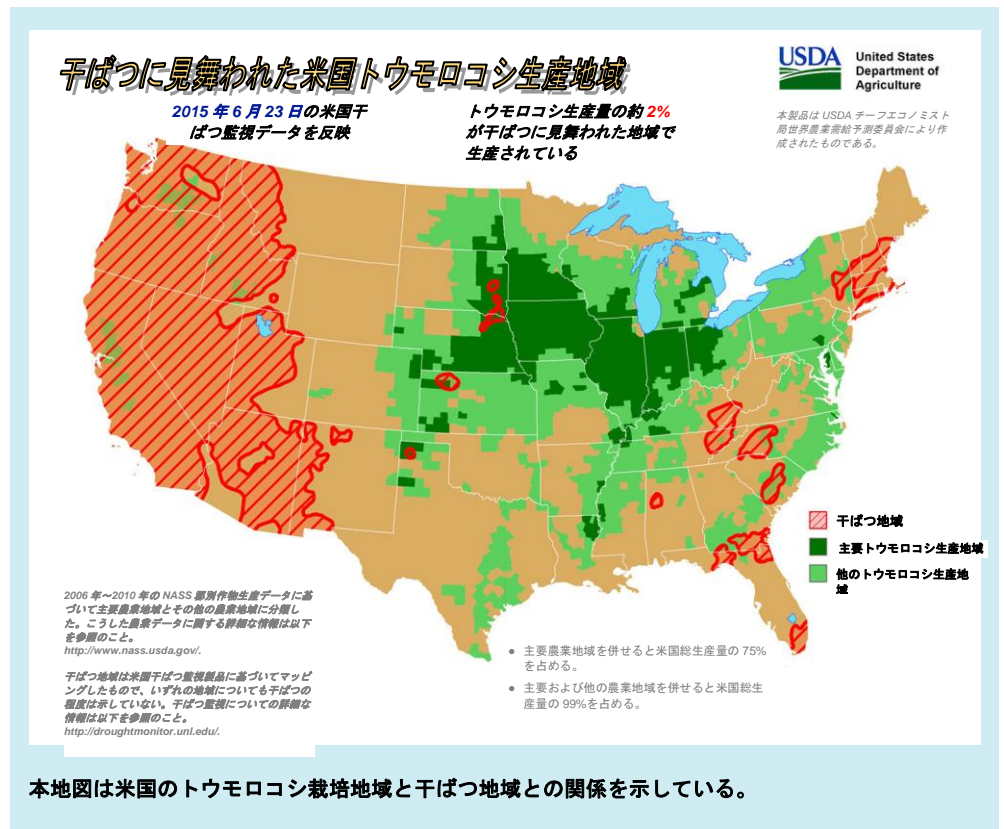
6月上旬の USDA の作物格付けを見ると、2015 年作物の収穫量は 2000 年～2015 年の収穫量の上位 20 パーセントに入っています。しかしながら、こうした推定値は栽培地域が過剰な降雨に見舞われた場合には変わってしまうことが予想されます。今後数週間の状況は最終的な作物の格付けに大きな影響を及ぼします。

「これからの 6~7 週間がトウモロコシ生産者にとって非常に重要になってきます」とハート氏は言います。

「天候は生殖生育期および登熟期において最も重要な要素です」

南部平原地域、特にテキサス州やオクラホマ州、カンザス州は平均以上の降雨があり、そのためソルガムの作付が遅れています。ソルガム生産 1 位の州であるカンザス州では作付がほぼ 2 週間予定より遅れ、6月にずれこみましたが、6月末までにソルガムの 90 パーセントの作付が終わりました。

ハート氏は 2015 年の作付が過去を上回ると期待しています。ソルガム生産者が受け取るプレミアムも上昇しています。加えて、昨年一年を通じて中国が需要を増加させており、他国のバイヤーもソルガムに興味を示しています。



エルニーニョの気象パターンは米国の州の大半にとって好都合であるように思われますが、その一方西部地域は極端な干ばつに見舞われています。北西部の生産者は予定より早く大麦を作付しているためそのほとんどは生育しています。

「全体として、2015 穀物年度は良好なスタートを切り、例年の収量を上回る可能性が高そうです。ただしシーズンのこうした早い段階では、常に何らかの条件が付きものです」とハート氏は言います。■

米国トウモロコシ作柄情報をオンラインで常に把握する

米国のトウモロコシ生産者がフェイスブックの「*Growing the 2015 U.S. Corn Crop*」のページに掲載する最新情報をチェックしてください。

このページには作物の生育進捗状況や状態に関する情報、生産者から寄せられた最新の天候情報、米国トウモロコシ生産者から寄せられた写真が掲載されています。

このページは以下のアドレスでご覧になれます。
www.facebook.com/GrowCorn. ■

